

馭戎慨言

下之上



不敵
鄧氏
贈

駁戎慨言下之卷上

伊勢國 本居宣長著

行啓記
印

龜山天皇於沙世文永六年。蒙古の使。高麗の使と
共來りて。對る小島にて。國王の書。臥せり。その征夷
大將軍は。お模國孫倉ふまへて。天下に大治政オホシラサマシを
行ふ代り。その書を。宰相より。傳へし。なり。かま
り。下り。也。

朝廷へ。を。し。り。し。る。沙世文永六年。蒙古の使。高麗の使と
共。來。り。て。對。る。小。島。に。て。國。王。の。書。臥。せ。り。そ。の。征。夷
大。將。軍。は。お。模。國。孫。倉。ふ。ま。へ。て。天。下。に。大。治。政。を。行。ふ。代。り。
其。の。書。を。相。宰。り。り。傳。へ。し。り。なり。か。ま。り。下。り。也。

○下之上

統あるは今味くしふ所よつこぬ。をくくくい時しあふく
のふんい蒙古らでふ金とよふをほらが。がらく宋
をくくくんくくくくくくくく。その王が名々忠必烈。
元の世社とよふもじがくくくくくくくくくくくくくく
へく。いんくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
元史を考くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
弘くくくく二人の者と使くくくくくくくくくくくくくく
大蒙古國皇帝奉書日本國王。日本開國以來亦
時通中國。至於朕躬。而無一乘之使。以通和好。冀



自今以往。通商結好。以相親睦。以至用兵。夫孰所
好。王其圖之。くくくく。高麗王にのひつをそ。け仗をそ。
へせくせくを。高麗王にのひのまそ。みらびまきりく
け。びくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
も。きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
天皇ふくくくく。の文永六年ふふふふ。け仗く。けやぐく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ひくくく。を宰府のくくく。先て。くくくく。くくく。く
七年二月ふ。又ふの趙良弼をかくせて。書をそく。その
ハ。くく。如。即。發。使。與。之。偕。來。其。或。猶。豫。以。至。用。兵。王。其

二年九月、小蒙太の役を殺すとありして。又弘安三年二月、小社世忠を殺す。予しある事、これ元史あり。至元十七年といつるをえて、ゆくりあり。その年のゆりともひ誤りあり。さて弘安四年六月、蒙太の^賊、さしおひこくおし、さそ、東つ、皇太子と。年ごらそのんせし、まて、ふりこのまうき、そ、よて、けり、これ法軍、あ、ま、して、法、さ、我、ひ、ま、た、あ、この、を、う、り、し、こ、い、へ、とも、荒業の、出内、へ、入、と、け、い、り、や、
 七月朔日。

天皇祇官、小行幸まじり、中四門、大納言、経任卿を勅使として、發遣せしむるを

大朴、ま、し、祈、り、し、海、ひ、又、ゆ、り、此、法、く、小、も、い、の、り、其、有、け、
 事、小、その、あ、り、し、の、心、さ、と、し、ま、お、か、り、あ、る、中、お、も、伊、
 勢、の、風、宮、の、林、の、い、さ、と、し、ま、を、も、ぞ、ち、あ、る、し、り、し、お、も、を、
 け、り、その、因、七月、初、の、日、此、年、の、時、と、り、あ、ら、あ、り、風、
 お、り、り、て、つ、く、の、船、三、十、五、百、艘、あ、ら、ま、し、ら、小、海、り、し、も、
 大、ひ、ら、ち、や、が、り、し、も、く、お、び、と、死、す、あ、ら、ま、し、ら、あ、ら、ま、し、
 と、よ、つ、お、も、ま、く、お、を、つ、ら、り、ひ、ら、ん、と、し、り、を、も、又、
 軍、が、り、し、を、も、さ、り、く、く、ま、ら、た、の、ま、ご、と、く、ら、も、元、史、小、
 至元十八年三月、命、日本、行、省、右、丞相、阿、剌、罕、右、丞、
 范文虎、及、忻、都、洪、茶、立、等、率、十、萬、人、征、日本、
 六月

阿剌罕以病不能行。命阿塔海代總軍事。八月。諸將
 未見敵。平全師以還。乃言至日本。欲攻太宰府。暴風
 破舟。未幾。敗卒于高脫。婦言。官軍六月入海。七月
 至平壺。嵩移五誌山。八月一日。風破舟。五日。文虎等
 諸將各自擇堅好船乘之。棄士卒十餘萬于山下。
 七日。日本人來戰。盡死。餘二三萬。為其虜。去。久之
 莫音與。兵萬五者亦逃還。十萬之衆。得還者三人。身
 といつ。比時のゆい平壺嶋と平戸津をよ。五誌山
 とハク鷹嶋をよ。うべし。鷹嶋も。いま玄海より。嶋
 大也。閏七月。日。此風を。八月一日といつ。ハ皇國と閏月の

ともつた。た。皇國は。書。う。七。あ。も。お。かく。八月
 あり。せ。り。元史。お。より。て。誤。と。う。物。を。さ。そ。わ。く。係。ふ。と。ぞ。
 此風のふらうて。たやま。く。の軍。れ。あ。う。び。う。せ。つ。ハ。そ。お
 外。も。海。う。け。つ。う。く。ま。ま。く。お。皇。津。ら。れ。ゆ。か。ん。か。く
 て。は。方。の。ら。わ。も。ら。お。ほ。く。う。り。て。後。々。な。ま。く。成。致。か
 成。持。ひ。い。ま。う。し。え。り。ぶ。じ。び。り。わ。つ。津。の。ゆ。は。の。は。い
 を。し。ら。く。し。人。も。は。津。の。道。ろ。く。ひ。あ。う。と。り。を。お
 志。あ。く。で。後。世。を。け。や。ぐ。を。お。あ。れ。風。の。吹。べ。き。を
 子。を。し。く。は。さ。り。と。ぬ。と。あ。ひ。あ。つ。て。家。を。陸。の。致。ひ

を始りしに。詔を奉つて。なかりしを。ひびく。御
ふね。國形。の海を。へび。ま。う。づ。う。た。る。を。の。こ
ひ。き。い。く。と。あ。ら。う。ま。う。ま。て。け。後。も。蒙。お。て
持。り。不。懣。に。ゆ。ま。を。う。む。ん。や。ま。う。て。年。々。ふ
軍。を。ま。う。を。持。り。な。ら。り。を。け。り。て。て。り。り
ら。と。い。ふ。と。は。い。ふ。え。お。し。を。う。て。

伏見天皇の御世。仁二年に。此世社を死。との孫鉄木耳
つとをついて成宗と。い。は。王。ま。う。て。

後伏見天皇は。此正安元年。一山と。い。や。り。し。を。使。り
て。書。を。奉。り。例。の。沙。羅。り。一。山。を。ば。う。へ。て。伊。豆。

は。流。う。り。後。よ。は。ゆ。う。り。ま。ま。こ。し。清。宗。ま。ま。り
て。出。へ。り。う。り。び。が。か。や。ま。も。も。も。ま。ま。と。を。り。て。南
禅。寺。の。住。持。り。と。ま。ま。も。も。も。元。史。も。成。宗。大。徳。三。年。
遣。僧。寧。一。山。者。加。妙。慈。弘。濟。大。師。附。高。船。住。使。日。本
人。竟。不。至。と。い。は。る。も。ま。ま。り。

後鳥羽天皇は。沙代より。北條氏大將軍が家の執権と
いひて。事。を。ま。ま。ら。ぬ。実。朝。大。臣。の。ま。ま。り。て。後。り
ひ。び。く。も。り。大。下。れ。り。月。を。か。り。ま。ま。に。お。こ。ま。ひ。て。れ
ま。ま。く。を。持。り。う。り。ひ。ひ。お。長。久。の。か。ど。の。ま。ま。り。逆。に。お
ま。ま。り。ん。と。し。ま。り。し。か。く。て。い。う。り。り。の。蒙。お。の

りし。始よりみまは北條氏がくくひりりし。故にまら
たてし。書きたりし。一方は、清義をせむべし。
此五人の例のみなり。がゆへに、まらぬ。しあらし。のまら
ば、しりし。ゆへに、まらぬ。ひりりし。まらぬ。しりりし。
蒙たまが、いふ。ひりし。いふ。まらぬ。しりりし。
せむ。しりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
清義の^{威徳}か。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
たつ^罪を。あぶ^贖せりりし。まらぬ。しりりし。
その。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。

右野行宮清宮後村上天皇は清世正平の一人。京師を

後光嚴天皇の貞治の末。しりりし。のまらぬ。の元初ら
びり。朱元璋としり者。まらぬ。しりりし。王とまら。明
の太祖としり。まらぬ。しりりし。代のわら。その
まらぬ。しりりし。皇のまらぬ。しりりし。中。清^{通野}じつ^好の
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。
まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。まらぬ。しりりし。

大伊弉の元は日嗣をうき侍りり終ひく。そのまのまきこしき

ゆえんおやしん我政を慕ひのべいしつらん

や。又蒙古與我等夷とハ。ゆくふいしきむがとし。我を

夷とせむ。あとしいしむ。明を中華うして蒙古と

夷といふし。とむがとし。せんらんらん人のしんらん

まごめふしやあとし。伊國より見えむ。蒙古も明も。同じ

我狄よりやあとし。何のきぢららんらん。せんふ蒙古の

まごめふし。北條が文入りらん。らんらん人のいしめ

華にわらう。らんらんらん。明の使をりや。めやらん

らんらんらんらん。とて今日記す。そのまへらんといふ。別

といはば仗のり。そのまよらん。例のましむらん。は

らんらんらんらん。らんらんらんらん。らんらんらんらん

まごめ。あまらんらんらんらん。らんらんらんらん。らん

つ。其臣趙姓者。誅我以好語。とハ。趙良弼が事して。

まごめ。らんらんらんらん。らんらんらんらん。らんらん

乃仗の。同じやらん。らんらんらんらん。らんらんらん

王が使を。天使といはれん。らんらんらんらん。らんらん

つらんらんらんらん。らんらんらんらん。らんらんらん

まごめ。らんらんらんらん。らんらんらんらん。らんらん

爲す。久しく紙幣ふさすりたり。其の始ハ克勒。沙
 公の天台座主の許へかゝりて書りり。其書ハ、
 尾官爲天台教寺衆即推其主之。盖前兩年皇帝凡
 三命使于日本。関西親王皆自納之。于時以祖來入
 朝称賀。帝召天寧禪寺住持祖闡。尾官教寺住持某。
 命曰。朕遣使于日本者。意在見其持明天皇。今関
 西之來。非朕本意。以其関西禁非僧不通故。欲命汝二
 人。密以朕意往告之。曰。中國更王建號大明。改元洪
 武。鄉以詔來。故悉阻於関西。今密以我二人告王。知
 之。大國之民。教寇我疆。王宜禁之。商賈不通。王宜通

之。與之循唐宋故事。脩好如初。又命曰。朕聞其君臣
 上下咸知奉佛敬僧。非汝僧不足以取信于人。
 命曰。朕遣使于日本者。意在見其持明天皇。
 今関西之來。非朕本意。其書の中ハ、其の意をあらわ
 し、そのつとふ。其書ハ、
 尾官爲天台教寺衆即推其主之。盖前兩年皇帝凡
 三命使于日本。関西親王皆自納之。于時以祖來入
 朝称賀。帝召天寧禪寺住持祖闡。尾官教寺住持某。
 命曰。朕遣使于日本者。意在見其持明天皇。今関
 西之來。非朕本意。以其関西禁非僧不通故。欲命汝二
 人。密以朕意往告之。曰。中國更王建號大明。改元洪
 武。鄉以詔來。故悉阻於関西。今密以我二人告王。知
 之。大國之民。教寇我疆。王宜禁之。商賈不通。王宜通

の詞をまゝにらるるおまじひりきり飯よあふでび二人
 のちりしものまじひりつらひつらあし。さうは流業
 久しくぶまわつわぶ。皇よのをやうをえさく。お
 懐良親王。まゝとあつねよん。始りくあまう。いづを
 まゝお
 天皇お流す。まゝあり。まゝひつきをけく。あんとあひめ
 ぐらして。はま。おまうて。おまがま。あつて。あつて。あ
 かま。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 時く。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 のまを。九月おふ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ

為其國演教。其國人頗敬信。而王則傲慢無禮。拘之
 二年。以七年五月遷京。時良懷年少。有持明者。與之
 爭立。國內亂。と。うま。二人のわりし。いづれが。おま
 くのりて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 じ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 よま。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 かつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 天皇のあつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 後深草天皇。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ
 龜山天皇。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あ

ふ。くとも懐良親王へをくせし。此書の初也。例乃
 み。りくもゆり。く。い。ん。く。か。り。又。此。時。同。官
 人。り。征夷大將軍へをくせし。書もあつて。大明禮部
 尚書至。意。日本征夷大將軍。ま。い。つ。り。ま。ち。中。外。
 前年奉書。我朝。丞相。く。い。ひ。又。洪武十二年。將軍奉書。
 を。い。つ。詞。あ。ま。ば。く。鹿苑院。大。於。軍。へ。を。く。せ。并。
 責。其。征夷將軍。い。つ。は。い。ま。い。書。の。執。を。る。小。さ
 び。く。ま。く。し。り。き。し。し。書。お。れ。ぬ。ゆ。史。亦。書。辭。又。倭
 と。い。つ。め。く。皇。の。尊。く。強。き。く。を。の。い。ま。ひ。て。い。ま。を
 も。く。く。ゆ。く。江。初。め。り。く。ま。く。し。り。ま。く。し。り。ま。く。し。り。

て。け。あ。し。現。る。し。ゆ。を。く。れ。王。ぶ。く。く。み。り。に。か。く。
 才。を。お。も。り。せ。し。皇。の。書。は。詞。を。く。し。倭。と。い。ひ
 て。み。り。小。さ。く。あ。ま。り。い。ま。や。く。く。く。く。く。く。く。
 入。り。ま。る。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
 臣。聞。三。皇。立。極。五。帝。禪。宗。惟。中。華。而。有。主。豈
 夷。狄。而。無。君。去。く。臣。居。遠。弱。之。倭。偏。小。之。國。城。池。不
 満。六。十。封。疆。不。足。三。千。尚。存。知。足。之。心。陛下。作。中。華
 之。主。為。萬。東。之。君。地。池。數。千。餘。封。疆。百。萬。里。猶。有。不
 足。之。心。常。起。滅。絕。之。意。云。く。臣。聞。天。朝。有。興。戰。之。策。
 小。邦。亦。有。禦。敵。之。圖。云。く。又。聞。陛下。選。股。肱。之。將。起。

精銳之師來侵臣境水澤之地山海之洲自在其備
豈肯跪途而奉之手ハ。臣何懼哉ハ。倘君勝臣負且
滿上國之意設臣勝君負ハ。及作小邦之利自古講和
為上。罷戰為強免生靈之塗炭救黎庶之艱辛。年々
進貢於上國歲々稱臣於弱倭。今遣使臣敬詣丹墀。
臣誠惶誠恐誓首頓首謹具表以聞ハ。其言ハ。
必の書ハ。し。ら。と。う。れ。ホ。の。せ。を。い。ら。り。の。あ。く。ろ。の。所。に。
り。と。く。と。く。て。ハ。皆。同。じ。き。中。外。全。浙。兵。制。と。い。ゆ。書。よ。ハ。
皇。心。の。文。辭。と。く。ニ。ツ。の。せ。う。う。ら。の。が。う。ろ。と。て。戒。嚴。王
思。行。成。表。と。す。り。戒。嚴。王。思。行。成。と。い。は。れ。る。ゆ。え。に。と

題

二首

字

異

といふことふゆゑかん。さて此書は、
く。け。と。終。さ。し。い。ん。ん。と。あ。り。ま。が。は。と。く。皇。心。人。の。我
王。と。び。う。ひ。く。長。と。い。ん。と。あ。る。べ。く。も。り。う。ご。う。ま。し。て
ん。を。親。王。に。ま。し。ま。は。く。ん。ホ。う。を。あ。し。し。皇。心。の。ま。ま
と。く。の。こ。ま。ひ。つ。つ。は。ゆ。書。あ。る。を。や。又。し。を。中。華。上
か。か。ど。い。ひ。く。ぶ。ら。う。夷。狄。と。の。こ。ま。ひ。を。さ。ぶ。い。こ
し。れ。が。た。と。あ。る。弱。倭。偏。小。之。國。を。ど。く。い。ら。る。の。あ
が。と。皇。心。の。こ。ま。ひ。を。し。思。ひ。く。せ。う。づ。ふ。と。ふ。と。小。な。つ。て
つ。む。の。ん。う。と。い。や。こ。し。い。ひ。を。や。う。と。り。う。先。こ。ま。ひ。を
う。う。ろ。う。と。い。や。を。何。懼。哉。を。ど。く。は。強。い。つ。つ。あ。し

心ねし頭さし一いし一く一んぬ一。
我他心一が心く一つ一り一て。
のこし一さ一。
し一く一つ一が一し一。
ま一じ一。
こ一さ一り一わ一ら一し一。
や一は一く一ま一た一。
ろ一く一。
り一り一し一。
し一。
一。ま一わ一ら一し一。
粟散國

た一い一。
のこ一し一。
あ一ふ一。
い一。
あ一。
平記一。
ら一。
う一。
の一。
ま一。
一。わ一ら一し一。
一。

燕王基をりつり。成祖より命をさし。うさくはたも。祀
 してしつてしつや。けだの往來のゆきうのゆり。もてつりのお
 の書やよらんくど。あつて。も身は。又清使つりて。清
 書をわくつらふ。明史に。成祖即位。遣使以登極詔諭其
 國。永樂元年。又遣左通政趙居任行人張洪偕僧道
 成往。將行而其貢使已達寧波。禮官李至剛奏。故事
 番使入中國不得私攜兵器。蠻民宜勅所司覈其舶。
 諸犯禁者悉籍送京師。帝曰。外夷修貢履險蹈危。未
 遠所費實多。有所齎以助資。亦人情。豈可槩拘以禁
 令。至其兵器亦准時直市之。毋阻向化。十月使者至。

上王源道義表及貢物帝厚禮之遣官偕其使還賈
 道義冠服龜鈕金章及錦綺紗羅一つり成祖を太祖
 が子し。父の徳をいしめをせしむる。又しと皇女一使
 をあつてなり。又女をわくせしやうをせしむるにひ
 きて。おしはひの禁めり物の審をせしむるがひ
 らふ。ひと皇女をゆる慕む。いを通じびるん
 といひ。あふるつりつり。永樂元
 年といひ。應永十年おつりつり。九十年お
 つりつり。は使し。皇室記を考へり。は建文の王が
 りつりつり。は使をせしむる。その又清使をつりて遣し

て。いしつらふりし。の史よ又いづく。明年正月。又遣、
侍郎命士士齋齋重書重書褒嘉。賜貴優渥。封其國之山。為
壽安鎮國之山。御製碑文立其上。六月使來謝賜。冕
服いへ了。明年とハ同に年に。封其國之山とハ肥後
小の阿蘇山し。い山し。もふら記れ柿の清り度で。すふ
靈異をふく山まふふ。わら王がつらりてあらまり了ゆを
しし。金鑄てもてきんち。いともぶらりし。いし碑にふ
こ今としつらふや。りしつらぶくやくぢくぶきつて
ららぢくこし。こもふ他もるごとしハ。いし道義と日ハ

國王ふ封し。勅合しもりししりをとるり
り。又明史し。五年六年頻入貢云。十一月再貢。十
二月其國世子源義持遣使來告父喪。命中官周全
往祭。賜謚恭獻。且致賻。又遣官齎勅。封義持為日本
國王。時海上復以倭警告。再遣官諭義持。勅捕しつく
す。玉を記す。永樂五年五月廿六日の明王が書をのしを
さり。また十二月まくくの應永十五年五月ふ日ハ鹿
苑院前大將軍くとしひしを。勝定院大將軍りり
告すひしの使の。十二月ふれ王が所へいしりし。こも
といすハ。依りるるりり。下にいしべし。こもてい

的に王より仗をきいて。故に其軍を祭らしたる。父も勝
 定院大將軍へごぞひの書みども。國宝記に載せり。
 又明史に。八年四月。義持遣使謝恩。尋獻所獲海寇。
 帝嘉之。明年二月復遣王進齋勅。褒賚其君臣謀阻
 進。不使歸。進潛登船。從他道遁還。自是久不貢。といへ
 ず。義持遣使謝恩といは。日本も王に封といふ。その答と
 云へり。いふことは勝定院大將軍ハ。必明王に封し
 を受りては。よふあはげ。又其仗もほろりて。まじまじ
 有り。下にきくしくいふべし。但しそのあら。あまほ
 しくをうきびらる。うきをいふをうへて。おろり後ひ

し。其事をどかきりて。やていあじ。そのことをいひて。う
 者みだの。あれ王にいひん。うま。おのふん。りて。んはうぬ
 いつたり。いひりかどをや。人取軍に作す。あまよ
 ていひひまじ。ふくにはははの。ゆひ。地のまはとま
 し。阻進。不使歸。といふ。しんぬ。し。り。いひ
 神主のかつりぬ。りのかどや。まふくし。し。きん。又いひ。十

五年。倭寇松門金郷平陽有捕。倭寇數十人。至京者。
 延臣請。帝曰。威之。以刑。不若懷之。以德。還之。
 乃命刑部員外郎呂淵等。齎勅。責讓。令悔罪。自新。中
 華人被掠者。亦令送還。明年四月。其王遣使。隨淵等。

來貢。云々といつり。前に見せしごとへては、正人等。刑
 かざりて、ふりし。このは、沙を、さらん。先の
 くしり。とし。明年其王遣使。隨淵等。來貢。云々といつり。又
 いと心切ぬ。し。まふ。は、云々記し。

祿光天皇の御世。應永廿六年。明。云々といつり。其の。来へ
 上。きざ。い。つ。使臣呂淵。去歲奉國命。齋勅書。就
 帶。倭人。來。日本國。公幹令。人。通報。國王命。古幢長老
 到。海濱。未。嘗。審詳。未。意。長老。旋。車。後。一向。信息。不。聞
 以。此。齋。捧。勅書。回。京。師。今。復。蒙。遣。齋。捧。勅書。重。來
 云。永樂拾陸年。漆月拾參日。つり。云々。呂淵

を。王。が。書。を。ぶ。え。く。そ。ら。ら。ぞ。い。ぐ。ふ。る。り。ぬ
 物。を。や。う。し。又。は。明。の。使。お。お。せ。り。沙。書。二。つ
 り。を。詞。ハ。下。に。引。か。く。論。へ。し。その。お。お。ひ。ひ。ぬ。
 前。又。於。軍。の。い。ま。し。の。い。め。お。作。せ。お。ま。し。い。ひ。ひ。ひ。
 して。明。書。の。い。ひ。ひ。を。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
 して。い。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
 び。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
 く。か。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
 り。ま。ま。い。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
 して。い。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。

の使のまゝにうりて、おのづからいひのちりしむるに、つゞ
 のやがたてゝいづりあるんを思ひつゝうりて、お
 玉へも、こゝろの作事のおしじこをがうして、おま
 ださかたのこいひまねに、いづれに、おつゞいづれ
 れら、こゝろの使を、まゝうりて、おまゝにうりて、
 きく、他うといひして、王が、まゝに、おまゝに、
 ちか。例の、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 まゝに、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 しゝふ。又、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 ら。おまゝに、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 復年

とも、おまゝに、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 おまゝに、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 いら、こゝろの使を、まゝうりて、おまゝに、
 きく、他うといひして、王が、まゝに、おまゝに、
 ちか。例の、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 まゝに、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 しゝふ。又、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 ら。おまゝに、おまゝに、おまゝに、おまゝに、
 復年

をかたは。私のまじしるをいしめて。いりまふおのの
 まをきくゆゑ。いりして。いりまふいひりして。おののまじ
 てきたて。又うまふいりして。いりまふいりして。
 天皇のまじしるをいしめて。いりまふいりして。いりまふ
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。

いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。
 いりまふいりして。いりまふいりして。いりまふいりして。

大將軍へ朝鮮國王がなす書あり。日本も主として
るるをなす。こゝろにすなり。なめこそはひ。又も王に賜ふ
書あり。こゝろにせむ。ぬしは。なめ。ぬしは。ぬしは。ぬしは。
天皇。ぬしは。ぬしは。ぬしは。ぬしは。ぬしは。ぬしは。ぬしは。
比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
大將軍とす。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
征夷大將軍とす。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
皇朝より神結へる職比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。

○下之上

○世四

らふ作しごなる。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
と。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
き。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
の例をのい。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。
了。又用し臣字。非也。不得し己。則日本國之下。如常。當
書官位。其下氏與諱之間。書朝臣二字。可乎。蓋此方
公卿恒例。則臣字屬於吾皇而已。可以避し臣於外國
之嫌也。といへる。ナグ官位をうけて。源朝臣とす。比
らん。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。比。

といし、但し戎人ハ朝臣を以てみんむのを不識れど。
その臣字を以て。あやとすれ王よびひくこのまを
かひて。そのおま置所つるましとまらぬべし。そし戎
びこのまらんと。ゆあしりつ社ど。臣字を以て王へ
きそんかんと。於中よりぬ。りやびとえぬと
かど。まそまらんと。まらんとまらんと。こか
よよははらねのやびとえぬゆらつらん。お王と
ハ蒙た敗ヤ櫻おちわつるへ。逃ぶかどハおふ
つらこのまらぬまらぬ。いしりくえぬあつ
をりつらん。トオハ。皇女をばいしりかひて。何れ

をして。いしりつとまらんと。おのれい
はらぬを。いしりつと。まらんと。まらんと。まらんと。
いしりつと。まらんと。まらんと。まらんと。まらんと。
夷大將軍とのいしりつと。まらんと。まらんと。まらんと。
天皇ハ。いしりつと。まらんと。まらんと。まらんと。まらんと。
皇女のまらんと。まらんと。まらんと。まらんと。まらんと。
物也。皇國を。まらんと。まらんと。まらんと。まらんと。
天皇ハ。いしりつと。まらんと。まらんと。まらんと。まらんと。
どへん。大將軍のまらんと。まらんと。まらんと。まらんと。
いしりつと。まらんと。まらんと。まらんと。まらんと。

天^皇の御^可及^長び多^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
い^ふは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
天^皇王^々とハ、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。

つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。
つひは、天^皇の御^事の御^事也。天^皇の御^事に事^成りて。

賢達者蓋未之有也。夫もいづら。まゝにわや^敬まかふる
 相もいさうこそませうとく。いさうくわや^礼まかふる
 のつらうあつた。さふ^無かかるといふことあつて。あ
 つかんふのいづら。いふくまゝに
 をつひへんがうまき。人といふことあつた。あ
 ぶをほじあつた。いさうかきまわらふ。いさうか
 のいさうあつた。いさうまゝにいさういさういさう
 や。いさういさうあつた。いさういさういさういさういさう
 書。應永八年。道義贈書并物。于大明國。建文皇帝

賜書。同十年。大明成祖皇帝賜書于道義。告其即位。
 位。なとあ記。さ。ハ。れ。お。く。と。あ。記。えん河のうら。自王
 人。あ。の。い。さ。う。あ。つ。た。い。さ。う。あ。つ。た。い。さ。う。あ。つ。た。い。さ。う。あ。つ。た。
 前大將軍源道義遣使明國。賜書及物。其王。其王
 朱允炆奉書謝之。明王朱棣奉書前大將軍。告
 其即位。いさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさう
 人。いさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさう
 小人。あつた。いさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさう
 あつた。いさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさう
 あつた。いさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさういさう

詩
許
諾
今之
曰夫與鄰國通好商賈往來安邊利民非所欲子然而余之所以不肯接明朝使臣者其亦有說先君之得病也卜云諸神為祟故以奔走精禱當是時也靈神託人謂曰我國自古不向外邦稱臣比者變前聖王之為受曆受印而不却之是乃所以招病也於是先君大懼誓乎明神今後無受外國使命因垂誠于孫固守毋墜其後僧使堅中與明朝行人偕來余欲

不接之以其未以如上事論使臣亦為予先君來故違誓而迎之及乎使臣之歸令堅中為諭此意不知未詳通乎去歲使船重來亦使等待長老重傳此趣使臣歸到本國胡不以此意達爾至耶余之所以不接使臣兼不遣一介者非敢持嶮阻不服也順明神之意奉先君之命以行事耳昔元兵再來舟師百萬皆無功而溺于海所以何者非唯人加實神兵陰助以防禦也遠聞是事必為怪誕古來吾國之神靈驗赫可不恐乎事詳國史今聞將以使者不通為辭用兵來伐使我高深城池我不要高我城亦不要深我

十年十月。以英宗嗣位。遣使來貢。正統元年二月。使
者還。費王及妃銀幣。といつ了。十年。同。宣德十年
より。永享七年。ふあつたり。國寶記よ。又永享六年
おつたり。いさ書紙のせつり。ことつた英宗がま
をかきつた。いさ書紙のせつり。物つた。英宗がま
を。同七年。ふあつたり。六年。つたり。七年。おつたり
し。ことつた王。ことつた。書とあて。正統元年
二月初四日。つたり。永享八年。にわつたり。つたり。明
史より。景泰四年。入貢。至。臨清。掠居民。貨云。つたり。景泰
の。正統皇帝が。つたり。つたり。宣德二年。ふあつたり。

正統元年。寶德二年。ふ。慈照院大將軍。つたり。つたり
つたり。又。つたり。つたり。明王が。つたり。つたり
ふ。景泰五年。正月初九日。つたり。つたり。つたり。寶德三
年。つたり。二年。つたり。つたり。宣德二年。に。つたり。つたり
つたり。つたり。又。明史より。天順初。其王源義政。以前使
臣獲罪。天朝蒙恩宥。欲遣使謝罪。而不敢自達。移書
朝鮮王。令轉請。朝鮮以聞。廷議。勅朝鮮。嚴實。令擇老
成識大體者。充使。不得仍前肆擾。既而貢使亦不至。
成化四年夏。乃遣使貢馬。謝恩云々。といつ了。天順。か
つた。英宗が。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。長

部	文學
番号	157
	(E)
部	天津中華圖書部藏

天津中華圖書部藏
 文學部
 157
 (E)
 部
 天津中華圖書部藏

